

麻機遊水地保全活用推進協議会

第 18 回総会

日時：2024 年 10 月 3 日（木）19:00～20:30
場所：静岡市役所 新館 17 階 171, 172 会議室

< 次第 >

1. 開会

2. 報告事項

- (1) 議事概要 （資料 1）
内訳：第 17 回総会、令和 6 年度総会委員意見交換会
- (2) 令和 6 年度（前期）取組み報告 （資料 2）
- (3) 専門委員のご退任について
- (4) 民間企業・団体との連携について （資料 3）
- (5) 活動証明書（試行）の発行について （資料 4）

3. 議事事項

- (1) 令和 5 年度決算報告（案） （資料 5）
- (2) 監事の選任について
- (3) 令和 6 年度予算補正（案） （資料 6）
- (4) 麻機遊水地生きもの図鑑の配布について （資料 7）
- (5) 麻機遊水地保全活用推進協議会規約の一部改正について （資料 8）

4. その他

- (1) 第 9 回遊水地フェスタ開催のお知らせ （資料 9）

5. 閉会

・ 麻機遊水地保全活用推進協議会
第 17 回総会・令和 6 年度総会委員意見交換会 議事概要

第 17 回総会 議事概要

(1)開催概要

本総会では、「令和 6 年度協議会予算（案）」、「令和 5 年度取組み報告および令和 6 年度取組み計画（案）」、「麻機遊水地保全活用行動計画第 3 期計画について」、「協議会調査データの公表について」、「令和 6 年度の遊水地フェスタについて」および「麻機遊水地保全活用推進協議会規約の一部改正（案）」について審議を行い、いずれも賛成多数により承認された。また、「令和 5 年度協議会決算見込み」、「民間企業・団体との連携について」などの報告も行った。

(2)開催日時

2024 年（令和 6 年）3 月 22 日（金）

(3)開催場所

静岡市役所 本館 3 階 第 1 委員会室

(4)開催内容

<報告事項>

- ① 第 16 回総会、第 15 回合同部会、第 9 回専門委員会の議事概要について
- ② 令和 5 年度協議会決算見込み
- ③ 麻機遊水地生きもの図鑑の印刷発行について
- ④ 民間企業・団体との連携について
- ⑤ 令和 5 年度麻機遊水地生物調査結果について

<議事事項>

- ① 令和 6 年度協議会予算（案）
- ② 令和 5 年度取組み報告および令和 6 年度取組み計画（案）
- ③ 麻機遊水地保全活用行動計画第 3 期計画について
- ④ 協議会調査データの公表について
- ⑤ 令和 6 年度の遊水地フェスタについて
- ⑥ 麻機遊水地保全活用推進協議会規約の一部改正（案）について

<その他>

- ① 麻機遊水地第 1 工区「あさはた緑地交流広場」より
- ② 令和 6 年度麻機遊水地クリーン作戦のお知らせ
- ③ ボランティア清掃に伴うごみ収集について

(5)参加者

■総会委員、顧問(21/27名)

No	区分		所属		氏名	出欠	
1	会長		東海大学 名誉教授		田中 博通	○	
2	学識経験者		静岡植物研究会 会長		湯浅 保雄	○	
3			日本野鳥の会静岡支部 副支部長		伴野 正志	○	
4			静岡大学教育学部 准教授		加藤 英明	欠	
5			NPO 静岡県自然史博ネット		杉本 武	○	
6			国立環境研究気候変動適応センター 副センター長		西廣 淳	欠	
7			東海大学海洋科学博物館・自然史博物館 学芸員		太田 勇太	欠	
8	地域代表		麻機学区自治会連合会長		杉浦 徹	○	
9			城北学区自治会連合会長		山崎 康司	○	
10			千代田東学区自治会連合会長		齋藤 健次	○	
11			竜南学区自治会連合会長		角 隆弘	○	
12			流通センター地区代表		伊藤 哲	○	
13	各部長・ 副部長	自然再生部会	自然再生部会 部会長 麻機湿原を保全する会 会長		後藤 昌徳	○	
14			自然再生部会 副部会長 麻機ウェットランドクラブ・麻機村塾 代表		石上 恭平	○	
15		地域活性化部会	地域活性化部会 部会長 協同組合静岡流通センター 専務理事		上川 雄司	○	
16			地域活性化部会 副部会長 あさはた緑地公園愛護会 会長		剣持 邦昭	○	
17		ベーター麻機部会	ベーター麻機部会 部会長 ベーター麻機部会		竹下 博実	○	
18			ベーター麻機部会 副部長 ベーター麻機部会		高橋 邦男	○	
19		行政		静岡県	河川海岸整備課長	望月 一弘	代
20					静岡土木事務所長	戸栗 一泰	欠
21	健康福祉部政策管理局 企画政策課長				村松 聡	○	
22	静岡市			企画局参与兼企画課長	鈴木 豪	欠	
23				環境局環境共生課長	石塚 浩史	○	
24				保健福祉長寿局健康福祉部 障害福祉企画課長	福井 秀明	○	
25				都市局都市計画部公園整備課長	杉山 晋	○	
26				建設局土木部河川課課長補佐 兼巴川総合治水対策係長	長井 隆	代	
27	顧問		静岡市長		難波 喬司	欠	

■事務局(9名)

No	所属		氏名
1	静岡県	交通基盤部静岡土木事務所河川改良課	岡本 修幾
2			西村 昌史
3			柴田 直紀
4		交通基盤部静岡土木事務所企画検査課	高山 博之
5			野中 千栄子
6	静岡市	都市局都市計画部	杉村 則久
7		都市局都市計画部緑地政策課	塩澤 友宏
8			吉川 晴英
9			堀井 由紀
10			中島 裕也

■傍聴(民間:11名)

No	区分	所属	氏名
1	団体	(公社) 静岡県造園緑化協会	藤田 祐司
2		静岡県環境アセスメント協会	岡本 壮野
3		東部生涯学習センター	杉井 円
4		(一社) グリーンパークあさはた	木下 聡
5		トヨタユナイテッド静岡(株)	井上 忠仁
6		ペーテル麻機部会	篠田 聖児
7		(株)アースシフト	平野 哲也
8		協同組合静岡流通センター・麻機遊水地柴揚げ漁保存会	濁沢 直也
9		東海大学水棲環境研究会	宮田 裕晟

■傍聴(行政:2名)

No		所属	氏名
1	静岡市	環境局 環境共生課	宮川 聡美
2	静岡県	交通基盤部河川砂防局 河川海岸整備課	梶原 大督

(6)開催写真



3-2-2.第 17 回総会議事概要

(1) 議事事項

○議事 1：令和 6 年度協議会予算（案）

挙手多数により承認された。

○議事 2：令和 5 年度取組み報告および令和 6 年度取組み計画

挙手多数により承認された。

○議事 3：麻機遊水地保全活用行動計画第 3 期計画について

事務局より、麻機遊水地保全活用行動計画第 3 期計画について実施項目の追加および見直しの提案を行い、挙手多数により承認された。

○議事 4：協議会調査データの公表について

事務局より、協議会がこれまで調査してきたデータを HP 上に公表する方針について説明および提案を行い、挙手多数により承認された。

○議事 5：令和 6 年度の遊水地フェスタについて

事務局より、令和 6 年度遊水地フェスタの実施および実行委員、出展者の募集方法を提案し、挙手多数により承認された。

○議事 6：麻機遊水地保全活用推進協議会規約の一部改正（案）について

事務局より、静岡市の寄稿改正による組織名の変更に伴い規約を一部改正することが提示され、挙手多数により承認された。

(2) その他報告事項

○令和 5 年度協議会決算見込み

事務局より、令和 5 年度協議会の決算報告がされた。

○麻機遊水地生きもの図鑑の印刷発行について

事務局より、麻機遊水地生きもの図鑑の印刷発行のスケジュールおよび配布方法について提示がされた。

○令和 5 年度麻機遊水地生物調査結果について

専門委員より、令和 5 年度の麻機遊水地生物調査結果について報告がされた。

○民間企業・団体との連携について

事務局より、『環境省による「自然共生サイトと支援者マッチング（試行）」』および『静岡県内・市内の民間企業との連携・支援体制の構築』について、進捗報告を行った。

○麻機遊水地第 1 工区「あさはた緑地交流広場」より

事務局より、第 1 工区「あさはた緑地交流広場」の今年度の取組みについて報告がされた。

○令和 6 年度麻機遊水地クリーン作戦のお知らせ

事務局より、令和 6 年度麻機遊水地クリーン作戦の日程について報告がされた。

○ボランティア清掃に伴うごみ収集について

事務局より静岡市で行っている、ボランティア清掃で発生したごみを対象にした収集事業について、説明がされた。

(3) 意見・質問

<議事2に関する意見・質問>

- ・あさはた緑地公園愛護会および麻機学区自治会連合会で以下を実施している。令和6年度も継続して実施する予定である。
 - 毎週土曜日にあさはた緑地公園で朝市を開催。
 - ひまわりロード（あさはた緑地の道路沿いの花壇）の整備を月3回（土曜日）実施。
 - 第1工区のハス池の整備（ヒメガマの除去）。
 - 河津桜の維持管理。

<議事3に関する意見・質問>

- ・新規項目の「特定外来生物の駆除」（特にナガエツルノゲイトウ）について事務局ではどのように行っていくか考えているか。
 - ⇒ 今年度は、協議会会員と協力した人海戦術と、建設業者に業務委託した駆除を実施した。対処療法にはなるが来年度も引き続き実施したい。丁寧な作業をしないと逆に拡散させてしまう可能性があることから、会員や専門家にアドバイザーになってもらうなど協力体制をお願いしてあたっていきたい。
- ・新規項目の実施主体は考えられているか。
 - ⇒ 第2期実施計画から、新たに始まった取組みを「新規項目」として追加した。現在の実施者が活動していくことを想定している。

<議事10に関する意見・質問>

- ・遊水地フェスタはとても良い取り組みであると思う。部会長たちに相談しながら、協力してやっていってほしい。

<今後の遊水地整備に関する意見・質問>

- ・第1工区の公園整備が終わり、他工区の整備についても考える時期だと思う。事務局としてはどう考えているか。
 - ⇒ 市内に複数ある大規模公園を順番に整備する必要がある。第3工区の整備は、計画にある通り必要だと考えている。第2、4工区については公園整備区域として指定がなく面的な整備は考えていないが、緑道などスポット的な整備で利用性を向上出来たらと考えている。
- ・第3工区については、整備のわかりやすいビジョンを示してほしい。
- ・整備のためには予算を付けないといけないと思うので、頑張って取ってほしい。
- ・「『人』をつくる場所」という視点で遊水地の整備方針を考えてほしい。遊水地の自然は、その点でベース（基盤）になるものだと思う。

令和6年度（2024年度）総会委員意見交換会 議事概要

(1)開催概要

本委員会は、複数名の総会委員から「行政担当者の異動」および「新型コロナウイルス禍の影響」で協議会内での連携体制が弱まっているという指摘があったことを受け、『協議会の連携強化』を目的に開催し、新型コロナウイルス禍以降の協議会内での取り組みや生じている変化などの情報共有、および連携の強化に向けた意見交換を行った。

(2)開催日時

令和6年（2024年）7月31日（水）15：00～17：00

(3)開催場所

静岡県静岡総合庁舎（静岡土木事務所）本館7階第7会議室

(4)開催内容

1. 情報共有
 - ① 自己紹介
 - ② 各主体からの情報共有
2. 意見交換・相談
 - ① 民間連携について
 - ② 2工区の維持管理・活用・魅力度UPについて
 - ③ 公園事業について

(5)参加者

■総会委員(民間委員)(12/17名)

No	区分		所属	氏名	出欠
1	学識経験者		静岡植物研究会 会長	湯浅 保雄	○
2			日本野鳥の会静岡支部 副支部長	伴野 正志	○
3			静岡大学教育学部 准教授	加藤 英明	欠
4			NPO 静岡県自然史博ネット	杉本 武	○
5			国立環境研究気候変動適応センター 副センター長	西廣 淳	欠
6			東海大学海洋科学博物館・自然史博物館 学芸員	太田 勇太	欠
7	地域代表		麻機学区自治会連合会長	杉浦 徹	○
8			城北学区自治会連合会長	山崎 康司	○
9			千代田東学区自治会連合会長	齋藤 健次	○
10			竜南学区自治会連合会長	角 隆弘	○
11			流通センター地区代表	伊藤 哲	○
12	各分会長・ 副分会長	自然再生部会	自然再生部会 部会長 麻機湿原を保全する会 会長	後藤 昌徳	○
13			自然再生部会 副部会長 麻機ウェットランドクラブ・麻機村塾 代表	石上 恭平	欠
14		地域活性化部会	地域活性化部会 部会長 協同組合静岡流通センター 専務理事	上川 雄司	○
15			地域活性化部会 副部会長 あさはた緑地公園愛護会 会長	剣持 邦昭	欠
16		ベーター麻機部会	ベーター麻機部会 部会長 ベーター麻機部会	竹下 博実	○
17			ベーター麻機部会 副部長 ベーター麻機部会	高橋 邦男	○

■事務局、関連委託事業者(9名)

No	区分	所属		氏名
1	事務局	静岡県	交通基盤部静岡土木事務所河川改良課	望月 一弘
2				住田 哲章
3		静岡市	都市局都市計画部緑地政策課	高田 千央（事務局長）
4				杉山 公治
5				中島 裕也
6				杉山 竜一
7	委託事業者	協議会運営補助（昭和設計株式会社）		小池 祥平
8				名倉 頌馬
9		あさはた緑地交流広場指定管理者 （（一社）グリーンパークあさはた）		木下 聡

(6) 意見・質問

<1. 情報共有 で挙げられた報告内容>

課題

- 新規の担い手を確保していく必要がある。
 - ・高齢化によるメンバーの離脱。
 - ・事業が進まない。
 - ・十分な管理（草刈）ができない。 など
- マナーが悪い利用者が増えてきているため、声掛けや周知が必要。
 - ・犬のフンの放置。
 - ・木道でグラウンドゴルフやバドミントンをする。 など
- 連携の継続が難しい。
 - ・積極的に協力してくださっていたドクターが転勤等でいなくなってしまったことと新型コロナウイルス禍による外出自粛で、病院との連携が弱まっている。
 - ・中央特別支援学校、北特別支援学校の先生が変わると、連携が一度途切れてしまう。
- 事業活動の実施、利用促進、維持管理のために、除草の仕方について考える必要がある。
 - ・道が見えないほど草が旺盛に繁茂し、利用や維持管理の障害になっている。（特に夏場）
 - ・事業活動の中でも草刈りに協力しているが、到底担いきれない。
- 止まっている施設整備を進めるべき。
 - ・木道整備（4工区）
 - ・看板の整備（案内看板、マナー周知看板など）

良かったこと

- ノウハウの蓄積
 - ・初夏の観察会の開催をクリーン作戦と日をずらしたことで一般参加者が増えた。シナジーのあるイベント、そうでないイベントがあることが分かった。
- 施設整備の効果
 - ・仮設トイレを設置していただいたことで、大きな効果があった。
 - ・日常の事業活動がしやすい。
 - ・連携先に声掛けをしやすい。
 - ・その他の遊水地活用（散策など）の中で利用する方も多い。
 - ・搭乗式草刈り機を配備してもらったおかげで、除草効率が上がり大変よかった。
- 連携の促進
 - ・中央特別支援学校・北特別支援学校の福祉農園の来場がある。
 - ・団体内連携に SNS（LINE）の活用がとても有効に働いている。
 - ・（一社）グリーンパークあさはたの一員である静岡市造園協会との連携協力により、利用者や生態系に寄り添った公園整備を行えている。
 - ・専門委員の西廣先生に月一で通っていただけており、自然再生活動、連携活動、具体的な相談を行えている。
 - ・てんかん病院内での、愛野菜やお菓子の販売を継続できている。（誠会や麻機湿原を保全する会などが提供）

○担い手の確保

- ・少ないながら新規メンバーの加入がある（自然再生部会・ベーター麻機部会）
- ・県職員 0B の加入が多い（現メンバーに県 0B が多く誘いやすい、多目的遊水地という施設に理解を得やすい）

○情報発信

- ・あさはた緑地交流広場の供用開始から事業年度を重ねる中で、認知度が上がっている。
- ・特に土日は、一般来場者で駐車場が常にいっぱいになる。
- ・気候変動に伴うの防災意識の変化や自然と触れ合える公園のニーズ増加、ビオトープ対象およびグリーンインフラ大賞の受賞など、社会ニーズや注目度の高い話題により、メディアの露出が増えてきている。

提案

- ・事業活動、利用促進、維持管理のため、早めの除草など夏場の草対策を検討した方が良いと思う。
- ・日本野鳥の会の探鳥会を第4日曜日午前中（9:30 集合）に行っている。生物だけでなく遊水地利用の様子や利用者の声がよくわかるため、行政担当者にも有益な場だと思う。上手にこの機会を利用してもらいたい。
- ・あさはた緑地交流広場ができ、新規利用者が増えているため、看板（案内・マナー）の設置を急いだ方が良いと思う。
- ・注目度の高まっているこの機会に、民間との連携を進めるなどで、賛同者や協力者を増やしていきたい。

<2. 意見交換・相談 で挙げられた意見>

① 民間連携について

- ・行政の予算縮小や高齢化による担い手不足など、現状のままでは価値の維持・創出がギリ貧な状況の中で、新たな資金や労力を引き込んでいきたいと考えている。（事務局）

○行政の役割

- ・民間連携により企業から資金や労力を引き込むことは賛成する。しかし、遊水地の整備、開発の方向性を決めてもらわなければ、連携の促進の土俵に上げることが難しい。その役割は行政が強く導いていかないと動けないことだと思う。（委員）
- ・観察会など注目度が高く、人を呼び込むことに寄与できそうな取組みをしているが、木道や管理道などの基盤整備が半端では、呼ぶこと自体が難しい。そこは行政にしっかり担ってもらいたい。（委員）

○対外的な示し方

- ・「民間連携」という言葉だけだと趣旨が伝わらない。対外的な示し方を考えた方が良い。「価値の維持・創出のための資金獲得」など。（委員）
- ・協力企業へのインセンティブの検討をしている。（事務局）
- ・インセンティブの存在の PR、アナウンスが大切。適切な PR、アナウンスができれば、各方面のプロの協力を得られる可能性がある。（委員）

② 2工区の維持管理・活用・魅力度UPについて

○現状について

- ・2-1工区を造成しているがヒメガマのみが優占し、11月ごろから穂が雪のように舞い、流通センターの商品や市民の生活に支障が出てきているため対策をしたい。（事務局）
- ・博物館の연구원などにヒアリングした結果、いろいろな種類の植物が入って競争する環境を創出する事が対策につながるとのこと。（事務局）
- ・湿地用重機による踏みつぶしや水位管理による環境変化などを試行したいと考えているが、それらだけで解決するかはわからない。（事務局）

○対策について

- ・植生の均一化は全国的な問題。参考となる他現場の事例があると思う。（専門委員）
- ・敷鉄板や遮光シートで覆いヒメガマの光合成を阻害することで、一度植生をリセットすることができる。（専門委員）
 - 敷鉄板は、予算と湿地環境での重機の取り回しの点で厳しそうであった。（事務局）
 - 遮光シートはよいかもしれない。湛水時に浮いてしまわないか要検討。（事務局）
- ・ヒメガマは多年草のため、草刈りや火入れなど上層部の除去だけでは、現在と同じような状況になると思われる。（専門委員）
- ・土砂を一時的に盛り、植生を一度リセットした後に、他の植物の種子を含む土を撒きだせば一強状態を防げるのではないか。（専門委員）
- ・3~4月にかけて水位を上げ、水没死させてはどうか。（専門委員）
- ・管理のための道を作ることは大切。（専門委員）

○活用について

- ・安東川エリアの西側 5,000m²（越流手付近まで）はリバーフрендシップ事業として登録している。
- ・堤防整備前は、標高の高い区域で除草や夏祭りを行っていた。（委員）
- ・城北小学校の環境学習で現場体験をする際、今は第4工区まで行く必要がありとても大変。近場の第2工区に環境学習ができる場所が生まれることに需要はある。（委員）
- ・堤防利用者は多い（散策など）。一方で、堤防整備後に安東川河床との高低差が大きくなり、安全性の不安から気軽に利用をオススメできない状況でもある。安全対策ができれば状況が変わるかもしれない。（委員）

○生きものについて

- ・単一植生では、生息する生物も少ない。ガマが繁茂する前は野鳥も昆虫も生息していた。（専門委員）
- ・安東川には魚も多数生息しており、環境学習の現場としてポテンシャルを持っている。（委員）

③ 公園事業について

○現状について

- ・第3工区の公園整備に向けて、指定区域の土地の所有の整理、買収を始めた。

- ・第3工区の公園整備を進めるために、整備方針や施設について地元のニーズを知りたい。

○整備方針について

- ・3工区の最大の特徴である豊かな自然を残した整備をしてもらいたい。
- ・維持管理の苦勞が大きい。維持管理負担が少なくなるよう整備に工夫があるとよい。
- ・目的、用途をはっきりさせる前に手を付けるべきではない。
- ・水が淀み汚いため、人を呼び込める状況でない。水環境を整えられるような整備が必要。
- ・医療福祉施設が多く隣接しているため、バリアフリーを基本とした整備が良いと思う。

○施設について

- ・休息できる大きなイスやごみ箱など、人が滞在できる施設が必要だと思う。
- ・道がわかりにくく迷子が多い。道案内施設（看板）が欲しい。
- ・緩いスロープなど、車いすや足の悪い人が散策しやすい通路だと良いと思う。

(7)開催写真



令和 6 年度（前期）取組み報告

1. 取組み報告・計画一覧

(1) 自然再生部会

	団体	実施内容	後期の予定	工区
1	麻機湿原を 保全する会	・保全活動 （草刈・パトロール等） ・夏の自然観察会	・保全活動 （草刈・パトロール等） ・サクラタデ観察会、野点	第 4 工 区
2	麻機 ウェットランドクラブ	・保全活動 （草刈・攪乱・移植等） ・おさんぽ観察会 ・オニバス観察会 ・ミズアオイ観察会 ・ナガエツルノゲイトウ防除 （近隣学校・企業との連携） ・各イベントへの協力 （ハス七夕まつり）	・保全活動 （草刈・攪乱・移植等） ・おさんぽ観察会 ・カヤネズミ観察会 ・ナガエツルノゲイトウ防除 ・各イベントへの協力 （遊水地フェスタ、近隣学校と の連携）	第 1、3 工区
3	東海大学 水棲環境研究会	・定点調査（魚類）	・各イベントへの協力 （サクラタデ観察会、柴揚げ 漁、遊水地フェスタ）	第 3、4 工区

(2) 地域活性化部会

	団体	実施内容		工区
1	麻機遊水地 柴揚げ漁保存会	—	・柴揚げ漁実施会場の整備 ・柴揚げ漁実演	第 3 工 区
2	麻機学区 自治会連合会	・水田、ハス田、畑の維持管理 ・グランドゴルフ大会	・どんど焼き ・河津桜の維持管理 ・遊水桜まつり	第 1 工 区
3	あさはた緑地公園 愛護会	・あさはた緑地草刈り ・ひまわりロード手入れ ・ヒメガマ除去作業 ・桶橋川右岸草刈り ・河津桜の維持管理	・あさはた緑地草刈り ・ひまわりロード手入れ ・ヒメガマ除去作業 ・桶橋川右岸草刈り ・河津桜の維持管理	第 1 工 区
4	麻機村塾	・古民具の手入れ、来場者への説 明 ・農機具の活用体験（脱穀機他） ・麻機の歴史散歩	・古民具の手入れ、来場者への 説明 ・農機具の活用体験（脱穀機他） ・麻機の歴史散歩	第 1 工 区
5	麻機緑地保全活用 推進協議会	・体験農園の活用体験 （もち米田、レンコン田） ・あさはた緑地草刈り ・ひまわりロードの手入れ ・河津桜の維持管理 ・あさはたふれあい夏祭り	・体験農園の活用体験 （もち米田、レンコン田） ・あさはた緑地草刈り ・ひまわりロードの手入れ ・河津桜の維持管理 ・どんど焼き	第 1 工 区

(3) ベーテル麻機部会

	団体	実施内容		工区
1	ベーテル麻機部会	・福祉農園、水田を活用した福祉医療施設との連携 ・福祉農園、水田の維持管理 ・福祉農園から四角池にかけての通路の維持管理 ・トイレの清掃・維持管理 ・不耕起播種農法 ・ベーテル麻機部会総会	・福祉農園、水田を活用した福祉医療施設との連携 ・福祉農園、水田の維持管理 ・福祉農園から四角池にかけての通路の維持管理 ・トイレの清掃・維持管理 ・引きこもりの方々の居場所づくりのPR	第3工区
2	地域の庭を作る会	・堤防部の除草、花壇整備	・堤防部の除草、花壇整備	第3工区

(4) 事務局

	項目(行動計画)	実施内容		工区
1	清掃活動の実施・美化活動	・麻機遊水地クリーン作戦	—	第1,2,3,4工区
2	自然博物館、生き物・パネル展示、出前講座	・七夕豪雨50年シンポジウムでのパネル展示	・各種イベントや施設でのパネル展示	—
3	広報活動	・自然シリーズパンフレット － 会員配布 ・フリーペーパー「すろーかる」への掲載	・ホームページ維持管理、会報発行 ・協議会パンフレットの印刷・配布・情報更新 ・自然シリーズパンフレット － 一般配布 ・遊水地フェスタ	—
4	保全活動	—	・外来生物駆除(ナガエツルノゲイトウ・オオフサモ) ・火入れ ・植生調査	第3,4工区
5	民間支援者との連携	・自然共生サイト支援者マッチング協力 ・地元企業との連携の検討		—
6	調査データの整理・公表検討	・過去の生物調査データの整理、公表検討		—

1-2. 令和6年度（前期）取組み写真

①麻機湿原を保全する会



夏の自然観察会（麻機の地史解説）



夏の自然観察会（魚の解説）



夏の自然観察会（植物の解説）

②麻機ウェットランドクラブ



湿地の攪乱作業



おさんぽ観察会



土木事務所攪乱協力後の植生調査



秋の植物観察会



ハスセタまつり（クラフトWS）



ナガエツルノゲイトウ駆除

③麻機村塾



あさはた歴史講座 Pt1



あさはた納屋の開放・解説



昔の遊び体験会



古民具の手入れ・活用



古民具の説明・体験



古農具の説明・体験

④ベーター麻機部会



田植え



サポートを受けながらの田植え体験



車いす利用者の収穫体験



部会総会を開催



農園の管理



仮設トイレの清掃・維持管理

⑤地域の庭を作る会



堤防花壇の整備



堤防の除草



近隣幼稚園による堤防利用

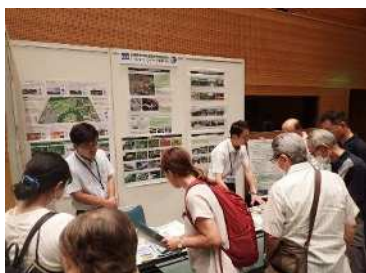
⑥事務局



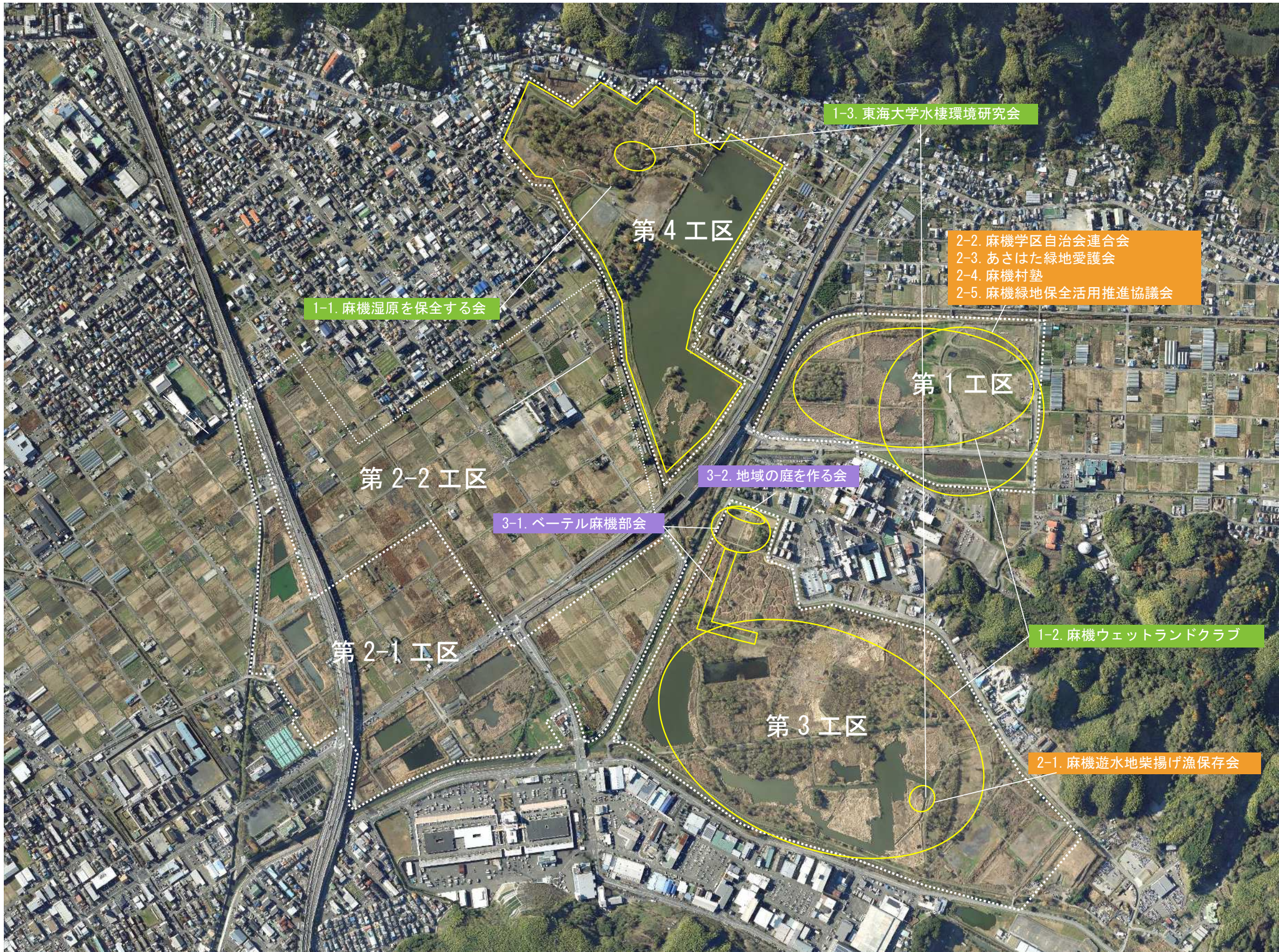
麻機遊水地クリーン作戦



遊水地フェスタ実行委員会



七夕豪雨 50 年シンポジウム



麻機遊水地保全活用推進協議会の課題の整理

協議会の現状

会員構成

会長 1名
学識者 5名
学校 6団体
連合自治会 4団体
各種団体 68団体

運営

運営資金 | 静岡県と静岡市にて予算を1/2ずつ負担。
協議会運営 | 事務局である静岡県、静岡市にて運営。
一部を民間委託にて対応。

活動内容

目指す姿

いのち

『生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機』

[自然再生全体構想]

目標

- 1) 良好な水環境の再生(全体)
- 2) 在来種の保存と生態系のバランスを保つ(環)
- 3) 人と自然との持続的にかかわりづくり(和)
- 4) 周辺とのネットワークづくり(輪)
- 5) 治水機能の確保
- 6) 自立発展型の地域活性化

自然再生部会

- ・オニバス観察会
- ・サクラタデ観察会
- ・ミズアオイ保全
- ・外来種駆除
- ・火入れ実験 など



地域活性化部会

- ・麻機遊水地フェスタ
- ・柴揚げ漁
- ・クリーン作戦
- ・ハス池の維持管理
- ・遊水さくら祭り など

ベータール麻機部会
(医療福祉連携)

- ・福祉農園
- ・広場と園路の維持管理 など



日本社会が抱える課題

人口減少と社会維持

- ・2040年には、更なる高齢化が進み現役世代人口が急減へ転じる。
- ・地域人口や地方公共団体の税収も大きく減っていくことが予想される。
- ・地域を守り続けるためには、地域の担い手の確保・育成、公共投資に依存し過ぎない地域づくりが急務。

協議会が抱える課題

1) 人材の確保

- ・活動を支える人材の高齢化、活動への新規参加者が増えない状況。
- ・活動の維持や、広い麻機遊水地の湿地環境の維持には、活動の担い手や、活動への新しい参加者確保が必要。

2) 資金の確保

- ・現在の活動は、協議会からの補助金等で実施しているが、新しい活動、事業を実施できる資金がない。
- ・継続的な活動の実施や、広い遊水地での事業展開には、安定した活動資金の確保が必要。

3) 技術支援の確保

- ・陸域化による湿地環境の減少、外来種の拡大などによる、単一的環境の増加によって多様な環境が減少している。
- ・問題解決の手法に、新しい考え方や新しい技術の導入を模索し、その実現に向けて、必要な技術の協力、支援が求められる。

4) 普及啓発

- ・遊水地の利用者や、活動への参加者、支援者を増やすためには、麻機遊水地の魅力と価値を伝え、認知度を上げ、訪れてもらい、参加に繋げる、普及啓発が必要。。

5) 協議会の自立

- ・行政への依存率が高い状況(予算、運営)は、将来的な事業実施に不安。
- ・協議会の自立による別予算の確保と運営、及び事業の活性化が理想。

自然環境に関する時代の流れ(政策/経済)

企業の成長戦略としての生物多様性への関心の高まり

- ・企業価値の向上と、持続可能な社会の実現のために、脱炭素(カーボンニュートラル)と資源循環(サーキュラーエコノミー)に加え、**生物多様性(ネイチャーポジティブ)**の取組みに、関心を持つ企業が増えている。

自然共生サイトの制定 2023年10月

- ・企業の森や里地里山、都市の緑地など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている地域」を「自然共生サイト」として認定する取組を開始。

- ・「麻機遊水地」は、**2023年10月(第1期)に認定される。**

生物多様性の民間参画に係る動向

2022年6月 **TNFD**(自然関連財務情報開示タスクフォース)設立、企業の自然関連の情報開示の枠組の開発開始
2022年12月 **OECD-COP15**で昆明・モントリオール生物多様性枠組採択 ビジネスにおける生物多様性の主流化に関する目標の強化 **30by30**
2023年3月 「生物多様性国家戦略」
基本戦略3に、「ネイチャーポジティブ経済の実現」

麻機遊水地保全活用推進協議会の課題解決策

課題

労力

資金

技術

普及啓発

自立

実施方針

1. 民間企業支援の確保

1) 企業の支援獲得

- ・企業の『生物多様性』に関する関心が高まる時代の流れの中、「自然共生サイト」に認定された。
- ・「麻機遊水地」は、公共施設ということで、多くの企業支援を受けやすい環境であるところと見え、この追い風に乘って、積極的に企業にアプローチし、「労力・資金・技術」の協力を求め、支援を獲得する。

○企業の支援獲得、支援継続のポイント

- ・知らなければ仲間は増えない。⇒広報

- ・企業が支援したくなる事業、ニーズの把握
- ・企業のリソースを活用した事業提案

- ✓ 認められなければ頑張れない⇒インセンティブ
- ✓ 結果がわからないと頑張れない⇒成果
- ✓ 楽しくなければ続けない⇒事業企画

2. 麻機遊水地のブランド化

1) 麻機遊水地のブランディング

- ・麻機遊水地の価値が広く認識され、遊水地での活動の信頼感が高まる取組を行う。

3. 活動が継続可能な組織整備

1) 協議会組織の整備

- ・複数の資金調達による運営
- ・企業支援の獲得から事業実施までの運営体制の整備

実施事項

1-1.パンフレット作成 1-2.説明会の開催

1-3.協議会員のニーズ調査 行動計画の実施事項

1-4.企業情報収集 ・サウンディング調査 ・協議会員から企業への打診 〃 聞き取り

1-5.事業企画 1-6.事業実施

1-7.インセンティブの検討 ・活動証明書 ・表彰要綱等

2-1.ブランディングの検討 ・自然共生サイト ・自然再生事業の認知、拡散 ・活動による新たな価値を創出 ・印象づけのロゴ等の作成

企業支援の可能性について、多くの企業から情報を集める。可能性のある企業に、協議会のニーズとマッチングして具体的な関わり方、支援内容を提案して支援を獲得する。

3-1.企業支援の受入れ体制の検討 ・企業へのヒアリング、支援獲得、活動とのマッチング、新事業への展開など、企業支援がスムーズに、スピード感をもって実施できる体制づくり

3-2.将来目指すべき組織の検討 ・寄付金が税制優遇を受けられる団体組織等の検討。 例) 一般社団法人・公益社団法人 認定NPO など

企業支援の獲得から事業実施までの運営体制の整備

企業支援の獲得から事業実施までの運営体制の整備

活動証明書（試行）について

民間連携の促進に向け、『令和6年度麻機遊水地クリーン作戦』にご参加いただいた団体・企業の皆様へ、『活動証明書』を交付することを検討しております。

資料3に記載した『1-7.インセンティブの検討』の実施内容として、まず『活動証明書』の交付をしていきたいと考えています。

1. 『活動証明書』とは。

- ・企業のCSRや各団体の活動証明としてご活用していただけます。

『活動証明書』は当協議会名義で正式に交付します。

- ・麻機遊水地保全活用推進協議会の方針に沿った取組みに交付します。

『巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想』および『麻機遊水地保全活用行動計画』に沿った取組みを対象とします。

2. 正式運用に向けて

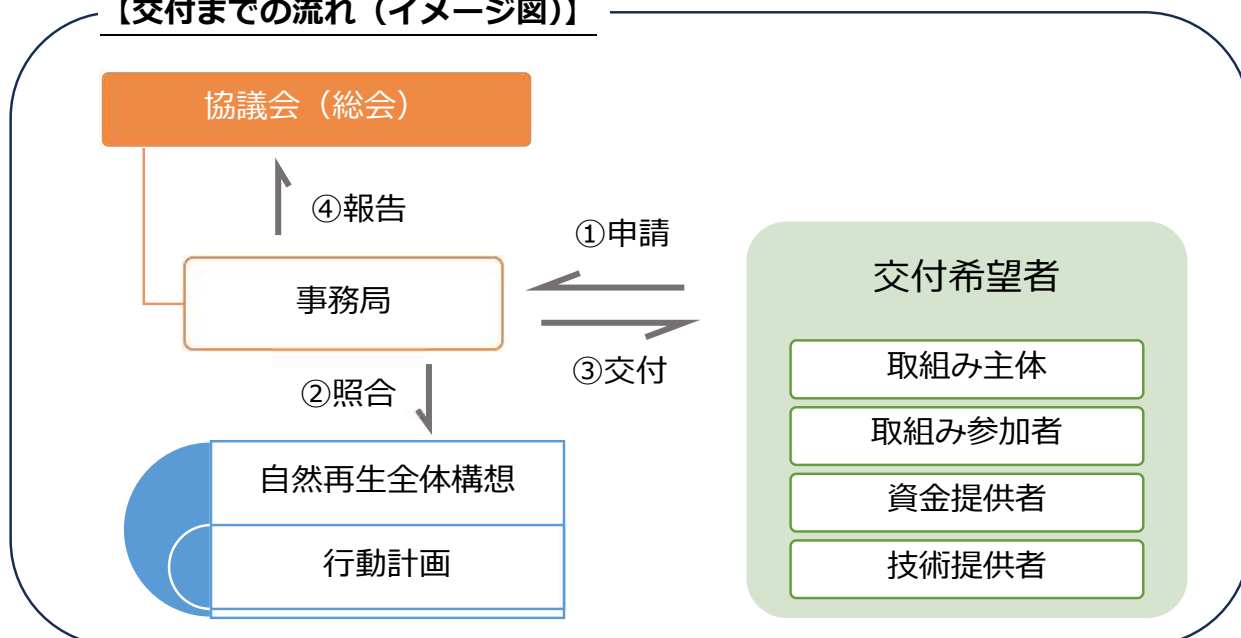
- ・数回の『試行』の後、正式運用とします。

各団体や企業の皆様が『活動証明書』に期待する記載内容や、申請負担の軽減などについて、試行の中でヒアリングを行い、正式運用に反映させます。

- ・『試行第1弾』として、『令和6年度麻機遊水地クリーン作戦』の参加者へ交付します。

麻機遊水地クリーン作戦の参加者の希望者に交付します。また交付にあたってヒアリングにご協力ください。

【交付までの流れ（イメージ図）】



令和5年度歳入歳出決算書

(歳入の部)

※R5.11総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和5年度 予算額(A)	令和5年度 決算額(B)	比較 (A-B)	備考
負担金	14,000,000	14,000,000	0	
静岡県	7,000,000	7,000,000	0	
静岡市	7,000,000	7,000,000	0	
繰越金	3,251,988	3,251,988	0	
雑収入	100	111	11	預金利息
補助金返戻金	0	415,037	415,037	活動補助金未執行分(7/8団体)
合計	17,252,088	17,667,136	415,048	

(歳出の部)

※R5.11総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和5年度 予算額(A)	令和5年度 決算額(B)	比較 (A-B)	備考
協議会活動経費	3,425,000	2,682,863	742,137	調査、資材、備品購入にかかる経費
謝金	1,433,000	1,334,500	98,500	専門委員等調査謝金、 図鑑作成執筆謝金
使用料及び賃借料	90,000	33,050	56,950	合同部会・総会会場使用料
役務費	446,000	42,824	403,176	タブレット契約料
需用費	1,100,000	601,413	498,587	生き物図鑑印刷製本費
備品購入費	356,000	671,076	△ 315,076	草刈り用具設置倉庫費
補助金交付費	1,484,000	1,484,000	0	所属9団体に対する活動補助金
報酬費	483,000	379,500	103,500	協議会委員への報償費
委託費	11,434,500	12,349,700	△ 915,200	1 事務局運営補助 2 植生調査 3 受付業務補助 4 麻機遊水地フェスタ会場設営 5 麻機遊水地外来種駆除
事務局運営経費	200,000	160,270	39,730	振込手数料、サーバーレンタル料
予備費	225,588	13,300	212,288	
合計	17,252,088	17,069,633	182,455	

※必要に応じて科目間の流用を認める

歳入合計 17,667,136

歳出合計 17,069,633

残額(翌年度繰越) 597,503

監査報告

令和5年度麻機遊水地保全活用推進協議会の事業内容及び収支
決算について監査した結果、書帳簿等適正であったことを認めます。

令和6年8月28日

監事 千代田東学区自治会連合会長

会長 齋藤 健次



監事 静岡土木事務所長

所長 伊東 信幸



(歳入の部)

※R6.3総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和6年度 当初予算額(A)	令和6年度 補正予算額(B)	比較 (B-A)	備考
負担金	14,000,000	14,000,000	0	
静岡県	7,000,000	7,000,000	0	
静岡市	7,000,000	7,000,000	0	
雑収入	100	715	615	(預金利息)
生きもの図鑑 協賛金収入	160,000		△ 160,000	
繰越金	318,706	597,503	278,797	令和5年度未執行額及び 団体活動補助金戻入金
合計	14,478,806	14,598,218	119,412	

(歳出の部)

※R6.3総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和6年度 当初予算額(A)	令和6年度 補正予算額(B)	比較 (B-A)	備考
協議会活動経費	431,000	489,540	58,540	調査、資材にかかる経費
謝金	219,000	219,000	0	専門委員調査費用等
使用料及び 賃借料	14,000	14,000	0	会議室使用料(葵生涯学習交流館(アイセル21)を想定)
役務費	30,000	88,540	58,540	通信費 すろーかる掲載分(協議会1/12枠 分+3団体補助分)
需用費	168,000	168,000	0	消耗品
備品購入費	0	0	0	
補助金交付費	1,308,000	1,308,000	0	麻機協議会補助金(上限200,000円)
報酬費	529,000	529,000	0	協議会委員への報酬費
委託費	11,532,000	12,032,000	500,000	1 事務局運営補助(6,270,000) 2 受付業務補助(127,600) 3 植生調査(4,345,000) 4 遊水地フェスタ会場設営(1,289,400)
運営経費	200,000	200,000	0	振込手数料、サーバーレンタル料
予備費	478,806	39,678	△ 439,128	雑収入+繰越金
合計	14,478,806	14,598,218	119,412	

※必要に応じて科目間の流用を認める

麻機遊水地生きもの図鑑の配布について（詳細版）

麻機遊水地生きもの図鑑は、前回総会にて、事務局の提案した「寄付金への返礼品」としての配布の方針が可決されました。

しかし、詳細に検討を進めていく中で、当初の目的・狙いが達成できない状況になることが分かったため、方針を見直して新案を作成いたしました。

新案の方針について、改めて本総会にて決議をとらせていただきたく存じます。



1. 前回総会までの経緯

1-1. 図鑑改訂の目的

- ・旧図鑑の発行から 25 年以上が経過し、麻機遊水地の自然環境が大きく変化している。
- ・子どもたちなど、「新しい世代に麻機遊水地の自然に興味を持ってもらう」ツールになることを想定して、自然環境の変化を反映した改訂版を製作。

1-2. 当初の検討のながれ

- ・以下のような効果を狙い、「寄付金への返礼品」とする方針で検討を開始。

○ 自然再生事業の継続・拡充に向けた試み

- － 県市の財政ルールに依存しない財源の確保、運用体制の構築
- － 継続的な図鑑配布に向けた財源確保

○ 麻機の自然および図鑑を大切に思ってもらいたい

- － コストをかけたものに愛着を感じる人間心理

- ・他地域の自然再生協議会（阿蘇草原再生協議会など）の運用事例を参考に、事業を進めていた。

1-3. 「寄付金の返礼品」とする方針が可決（第 17 回総会）

- ・他地域の自然観察地の図鑑ハンドブックなどの金額設定を参考に「800 円の寄付に対する返礼品」として金額設定。
- ・2024 年度の配布開始予定。

2. 「寄付金への返礼品」として扱うことについて

2-1. 税法上の事実関係

寄付に対する返礼として生きもの図鑑を交付する場合、法人税法上の「収益事業 34 業種」に該当し、行為を継続する限り、収支がマイナスの場合でも年間 7.1 万円以上の法人税等が発生することを確認した。

2-2. 要因

① 事業者区分の違い

- ・当初の見込み | 課税（税金）が免除される公益・公共団体。
- ・実際の区分 | 法人税法上、「人格のない社団等」に該当する。

参考事例 → ○○協会、○○学会など

② 「出版業」は法人税が発生

- ・「人格のない社団等」が行う事業は、通常、法人税などの課税はない。
ただし、「収益事業 34 業種」に該当する行為を行う場合に、法人税などが課税される。
→生きもの図鑑に関する金銭と物品の収受は、「収益事業 34 業種」のうち、「出版業」に該当する。

2-3. 問題点

- ・生きもの図鑑に対する 800 円の寄付について、開始直後は一定以上の配布数と収入が予想されるが、継続して販売するにつれて、配布数と収入が減少していく恐れがある。
- ・収益事業の実施に伴う課税によるマイナス分を回収するためには、販売を継続する限り、少なくとも毎年 300 冊分の収入が必要。
- ・消費物ではないことから、今後一定して年間 300 冊以上の需要があるとは考えづらく、マイナス分の回収は困難と考える。
- ・収支がマイナスの場合でも、年間 7.1 万円以上の課税は必ず発生する（配布数が少量でも、「法人税均等割」が発生）。
- ・麻機遊水地保全活用推進協議会の予算で新たに図鑑を印刷した場合、その経費についても課税の対象となる。

3. 新案

基本方針	STEP0 協議会会員向け	活動上の必要部数を配布
	STEP1 一般の方向け	「条件付き」で無料配布
	STEP2 将来的な見込み	今後の図鑑提供や活用に向けた取組み

3-0. STEP0 協議会会員への配布

印刷済みの初版（2000部）を用いる。

STEP0. 協議会会員へ配布

狙い | 麻機遊水地保全活用推進協議会の活動の中で活用してもらう

- ・協議会会員の日々の活動の中で活用していただくために配布をする。
- ・活動にあたって必要な部数^{※1}をヒアリングし、標準的な部数（協議会会員に公平に配布できる部数）を決定、無料配布。

※1 団体会員のスタッフ分、観察会の貸出テキスト分など

- ・配布可能な部数以上に配布を希望する場合は、協議会員より印刷代の実費^{※2}を集金する。

※2 要望のあった総部数により、新規で印刷が必要になる場合があります。

<参考>

- ・印刷単価

300部印刷の場合	2780円/部
400部印刷の場合	2120円/部
500部印刷の場合	1724円/部

3-1. STEP1 一般の方への配布

印刷済みの初版（2000部）を用いる。

STEP1-1. 公共施設へ寄贈配布

狙い | 新しい世代に興味を持ってもらう

新しい世代が集まる学校や、誰でも閲覧ができる図書館などへ寄贈。

① 以下施設へ標準5部ずつ寄贈（実際の寄贈数は各施設と相談して決定する）

- ・市内の公立学校の図書室（小中高校）（138校×5部＝690部）
- ・市内の公立図書館（12施設×2部＝24部）
- ・生涯学習センター、生涯学習交流館（32施設×2部＝64部）
- ・国会図書館（2部）
- ・ふじのくに地球環境史ミュージアム（2部）

計 782 部

② 贈呈式

- ・近隣小学校（麻機小学校、観山小学校）、図書館などで贈呈式を実施。
- ・メディア関係者にお知らせし、広く周知してもらう。

STEP1-2. 協議会事業の参加景品として配布

狙い | 麻機遊水地の自然および図鑑を大切に思ってもらい定着を図る

- ・入手までに段階を設けることで、図鑑を大切に思ってもらう。
- ・協議会の活動に参加し、麻機遊水地や活動に愛着を持ってもらう。

① 取組み参加でポイントをためる

- ・協議会会員が主催する自然再生活動や地域貢献活動、自然観察会等に参加して、カードにポイントを貯める。

② ポイントカードと図鑑を交換

- ・交換の必要ポイント、取組みの獲得、引換え場所などは、後日会員へ聞き取り予定（合同部会として開催予定）

STEP1-4. マーケティング調査

- ・STEP2 へ向けた見通し（増刷数など）を持つため、市場規模、適正価格などを調査する。

手法 | QR コードを用いた Web アンケート

時期 | 公共施設への寄贈に合わせて実施。

項目例)「何円なら購入するか（支払い意志額）」

「周囲に取得を希望する人はいるか（市場規模）」など

3-2. STEP2 将来的な見込み

次版以降の印刷分について。

STEP2-1. 図鑑の有償刊行物化

① 有償刊行物として登録・増刷

「STEP1-4. マーケティング調査」の結果をもとに、以下2案を含めて検討。

（案1）麻機遊水地保全活用推進協議会として図鑑を販売する。

- ・Web アンケート結果をもとに価格等を再設定。
- ・麻機遊水地保全活用推進協議会として販売する。

必須採用条件
・税金支払いによる負担以上の利益が見込める場合。
メリット
・販売場所を気にせず販売可能。 ・予算を確保できる（協議会運営または図鑑印刷）
デメリット
・協議会の予算を圧迫する可能性がある。 ・協議会事務が煩雑化し、人手がとられる。

（案2）県及び市の「有償刊行物」として図鑑を販売する。

- ・協議会より県、市へ図鑑の著作権、販売権を移譲。
- ・2-1 工区の地図を記載するなど内容を拡充したうえで、県、市の予算で作成、販売する。

必須採用条件
・県および市の有償刊行物として認可が得られる場合。
メリット
・税金に関する事務が発生しない。 ・協議会の予算に対する負担が発生しない。
デメリット
・販売場所が限られる（静岡土木事務所、静岡市役所）。 ・協議会の収入とならない。

STEP2-2. 図鑑事業の今後の可能性について

図鑑を活用したプロジェクトを計画し、民間より寄付金や連携協力を募る。

例）周辺小学校等を対象にした出前授業（図鑑をテキストとして活用）など

麻機遊水地保全活用推進協議会規約の一部改正について（案）

資料8

麻機遊水地保全活用推進協議会規約における『別表2（第7条関係）』について、一部委員の退任のため、委員名簿を一部改正する。

別表2（第7条関係）改正前

所属	専門分野	氏名
静岡植物研究会会長	植物	湯浅 保雄
日本野鳥の会 静岡支部 副支部長	鳥類	伴野 正志
静岡大学教育学部准教授	爬虫類	加藤 英明
国立環境研究所気候変動 適応センター 副センター長	生態系	西廣 淳
NPO静岡県自然史博ネット	昆虫類	杉本 武
東海大学海洋科学博物館 学芸員	魚類	太田 勇太

別表2（第7条関係）改正後

所属	専門分野	氏名
静岡植物研究会会長	植物	湯浅 保雄
日本野鳥の会 静岡支部 副支部長	鳥類	伴野 正志
静岡大学教育学部准教授	爬虫類	加藤 英明
国立環境研究所気候変動 適応センター 副センター長	生態系	西廣 淳
NPO静岡県自然史博ネット	昆虫類	杉本 武

第9回遊水地フェスタ開催のお知らせ

2024年 第9回 ASAHATA FESTA

麻機遊水地 フェスタ

遊水地で
楽しく遊ぼう！

10/26(土) 9:00 - 15:00

※雨天時は、中止になります。

【場所】麻機遊水地 第3工区

イベント会場・プログラム内容詳細は裏面へ▶

入場
無料

※一部有料

麻機遊水地って どんなところ？

治水機能と公園機能を有する遊水地（雨水を溜めて洪水を防ぐ施設）です。
生きものの貴重な生育・生息の場として注目されています。



開催に関する
最新情報はこちら



お問
合せ

昭和設計株式会社事務局内
麻機遊水地フェスタ実行委員会

☎ 054-252-1854

※お問合せ時間：8:30～17:00（担当：小池）

当日 静岡市コールセンター
問合せ 「市役所いつでも電話サービス」 ☎ 054-200-4894



【主催】麻機遊水地フェスタ実行委員会
(麻機遊水地保全活用推進協議会)

【共催】静岡県静岡土木事務所、静岡市35

体験できるプログラムが盛りだくさん！

200m

※縮尺は目安です。



ネイチャークラフト

静岡県環境アセスメント協会

麻機遊水地の 野鳥・昆虫

日本野鳥の会

遊水地の魚類展示

東海大学水棲環境研究会

障がい者スポーツ体験

社会福祉法人 愛誠会

カヌー・ボート体験

(※体験は抽選です)

関古川組

柴揚げ漁(柴入れ)の実演

麻機柴揚げ漁保存会

植物のパネル展示

麻機ウエットランドクラブ



はたらく重機と ふれあおう

(株)株式会社アクティオ 静岡支店

青空コンサート

静岡北特別支援学校 和太鼓部
麻機太鼓

遊水地の魚類展示

東海大学水棲環境研究会

麻機の歴史文化紹介

麻機村塾

学校活動紹介

静岡北特別支援学校

運動相談ブース

静岡市ふれあい健康増進館ゆらら

あさはた緑地公園の活動紹介

あさはた緑地公園センターハウス

帽子のクラフト体験

合同会社未来は
就労継続支援B型事業所げんき

※天候等により、プログラムの内容は
変更となることがあります。
あらかじめご了承ください。



【飲食物・物販の出店】

焼き菓子・飲料の販売(愛誠会)
中華料理販売(中華フェス)
遊水地産の野菜(ベーター麻機部会)
地元の野菜・流木(麻機学区自治会)
駄菓子・おもちゃ・加工品
(合同会社未来は、
就労継続支援B型事業所げんき)

